

コンクリートと地域住民の連携が守る安全な暮らし



県内2番目に「急傾斜地崩壊危険箇所」が多い

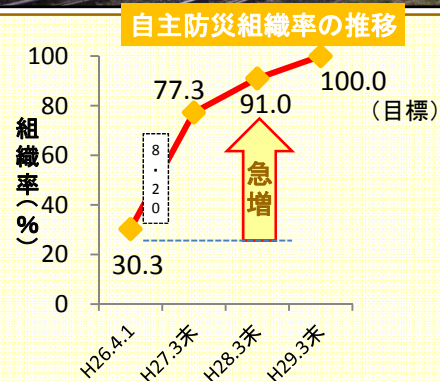
東広島市は約60%が山地であり地形的に危険箇所が多く、また、水分を含むと地盤がゆるんで崩れやすい風化花崗岩(まさ土)が広く分布した地質で、長雨や集中豪雨を起因とする「がけ崩れ」などの土砂災害が起こりやすい特性を有しています。

急傾斜地崩壊危険箇所数 市町順位

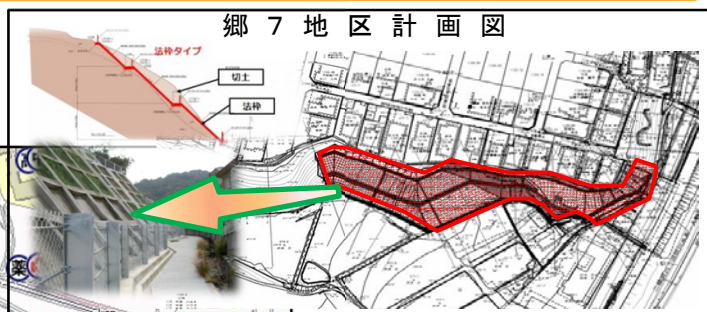
市町	急傾斜地崩壊危険箇所数
広島市	3,634
東広島市	2,187
呉市	2,086
庄原市	2,024
福山市	1,796

自主防災組織の結成が急増(東広島市)

市では、平成11年6月29日、平成22年7月11～16日などの豪雨災害により大きな被害が発生していますが、とりわけ隣接する広島市で発生し、76名もの尊い人命が失われる甚大な被害をもたらした8.20土砂災害により、今まで以上に、**地域住民の防災意識が高まっています。**



要配慮者利用施設*の「幼稚園」や避難場所の「中学校」を含む地域全体の安心が向上



* 土砂災害のおそれのある箇所に立地する「主として防災上の配慮を要する者が利用する施設」